

先駆

号外

共産主義者同盟統一委員
員会中央総務部

〈発行所〉
先駆社
〒千代田区神田駿河台
3の2、東京七区内
(251) 7211, 7212、
〒千代田区東船橋区田川
1丁目3の16、万建七
区内(302) 7283

〈発行責任〉
共産主義者同盟統一
委員会・政治局

〈編集責任〉
正木真一

日韓条約批准阻止・原潜入港反対。

ソウルの決死的デモに呼応し、戦斗的デモを！！

東京—ソウルの二下で日本韓半島の配を自らに痛撃せよ

共産主義者同盟統一委員会書記局・社会主義学生同盟全国委員会

全部の労働者諸君！学生諸君！

日韓条約に反対して、南朝鮮の学生が決起した。今、斗っている。銃剣をも、戦車をもものともせず、学生は怒りのデモを展開している。

一方、ベトナムでは、米の侵略は一反はげしさを増しつつある。十四万の軍隊を送り込み、侵略の战火はハノイ東北56キロ、中四四境48キロのところにまでひろげられている。

又、佐吉保には核兵器潜水艦パーミットがその不気味な姿を浮かべている。岩田飛行場には、F4Bファントム全天候爆撃機が配置され、B52は沖縄、板付を基地にしている。

ソウル—ベトナム—沖縄—佐吉保。帝国主義反動の黒雲が、アジアの全天空をおおっている。

かかる情勢にあつて、我々日本人がなすべきはなすべし。我々日本人がなすべきはなすべし。我々日本人がなすべきはなすべし。

米のベトナム侵略に反対する我々の斗いは軍事物資の生産阻止、核潜艦反対、岩田板付沖縄の基地化反対の斗いとして具体化されねばならない。

南朝鮮の学生は日本帝国主義の再侵略に反対し、朴ファッショ政権に反対し、死にものぐるいで斗っているのだ。この斗いを見殺してはならない。東京でも斗いの火を切ることだ！ソウル—東京のデモで日韓条約をぶつとばせ！！

日韓条約の破壊は、た

だちに朴政権の崩壊と佐藤内閣の大動揺へと発展し、アジア反革命体制への巨大なくさびさなるであろう。

我々日本人の任務と行動は、当然に全アジア的視野に立つことを要請される。

佐藤内閣は、10月国会で日韓条約批准のハラを固めている。過剰生産に悩み、不況の進行に深刻化しつつある日本スルジョアジーにとって、朝鮮侵略は火急の必要事となりつつあるのだ。日本スルジョアジーは、

南朝鮮支配を突破口に、「悪夢、もう一度」と再びアジア人民への不吉な鎌首をもたげつつあることを我々は知らねばならない。

かつて、我々日本人は、日本スルジョアジーの海外侵略に協力して、そのおごばれを期待するか、それとも全アジア人民と連帯して帝国主義に反対するか、と口をきつつけられ、侵略勢力に走ってしまつた。日韓条約は、再びこの問題を我々につきつけているのだ。

10月批准国会を粉砕せよ！！ 米のベトナム侵略を許すな！！ 日本の基地化—核潜入港を許すな！！ 南朝鮮、ベトナム人民との斗い連帯のもと、日韓条約、ベトナム侵略を粉砕しよう。

ハスローガン

※核爆雷原潜寄港を粉砕せよ！！
※日本帝国主義の侵略と抑圧！！日韓条約を撤廃せよ！！
※デモを抑圧する東京都公安条例を撤廃せよ！！
※公共料金値上げ反対！！

反対！！

日本マルクス主義の二つの流れ

A) 日本におけるマルクス主義

(1) 初期社会主義

1897 岩谷小波
1900 高橋素十郎

キリヤト社会主義 佐佐木 林下

1905 分党

社会主義と無政府主義 (堺 幸徳) (幸徳) -> 社会主義 (近藤 啓)

大逆事件。冬ノ時代 在野会 (村山 龍平)

(2) 日本マルクス主義の形成 米谷 哲夫 -> 日本共産党 (若尾 徳平)

1) A. B 論争 大杉 生 哲学. 実証的个人主義.

2) 山川 不 友 公 の 登場 1922-25 (河野 清)

3) 福本 延 公 八 八 的 転換 介 継 結 合 論. 理論斗争 1925-26

(3) 講座 野 農 対 立. 理論分析

4) 志 賀 赤 松 論 争 科学的方法

5) 志 賀 赤 松 論 争 科学的方法

6) 志 賀 赤 松 論 争 科学的方法

7) 志 賀 赤 松 論 争 科学的方法

(B) 山田 理論 的 登場 32 年 一 七, 日本 資本 主義 発 達 史 講 座 190 週年 記念 論 文

(4) 野 農 派 的 思想 坂 本 龍 一 (天皇制)

。 坂 本 龍 一 論

。 日本 資本 主義 論

。 講座 派 的 思想

。 日本 資本 主義 論 半 封 建 的 土 地 所 有 論

。 運動 論 天皇 制 = 絶 对 主 义

。 講座 派 と 大 塚 史 学 (近 代 主 义)

。 戦 后 に お け る 野 農 派

。 旧 野 農 派 の ハ タ ム 1917 - 1922 年 代 的 経 過

。 新 野 農 派 の 登 場 1917 年 代

。 戦 后 に お け る 野 農 派 志 賀 赤 松 論 争 (皇 封 帝 国 主 义)

。 新 講座 派 理 論 (科学 的 方法 と 科学 的 主 义)

。 日本 資本 主義 講 座 新 編 論

。 植 民 地 論 半 封 建 地 主 天 皇 制 残 存 論

(9) 講座 派 的 現 状 現 状 論

(10) 共 産 党 と 講座 派 32 年 一 七, 五 回 大 会 宣 言 新 編 論 現 状 論

(11) 高 本 の 運動 法 則 を 日本 資本 主義 分 析 の 一 義 的 視 点 と せ ず

た ら ず 日本 資本 主義 の 運動 形 態 上 の 特 殊 性 外 的 要 因 を

考 慮 し 必 ず 其 の 基 礎 に して 日本 資本 主義 が 存 在 する

の 必 要 性 を 示 す。

その 上 高 本 が 力 を 注 ぎ 得 ない 限 界 内 の 諸 条件 が 充 満 され なければ

な ら ば 以 上 の 思 考

三 二 年 一 七 の 物 理 的 基 礎

(12) 講座 派 理 論 的 環 境

(13) 野 農 派 的 思想 的 系 統

。 高 本 の 思想 科学 的 方法

。 科学 的 方法

1000 年
60 年
30 年